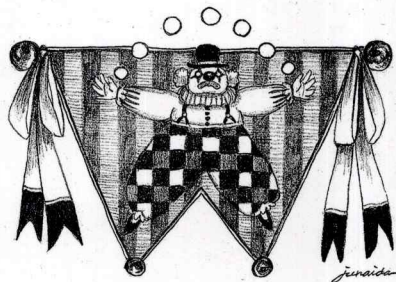


歌壇 俳壇



「日曜日のブローチ 38」 junaida

短歌時評 影絵のような日本で

山崎 聡子

遠つた代々の冥きより曳くひとすぢの白光
かけがへなき國體
昨年、夫婦別姓を支持する人や性的少数者を「差別者」と表現し、「國體」の復古を求めた高島裕の連作「アイデンティティ」が物議を醸した。作品論を離れてその思想が批判を浴びた本作だが、この作品が描かれた背景には、ナショナリズムが高揚し、多様性の否定に向かいかねない現代日本の潮流があることは否定できないだろう。

そんな潮流のカウンターになりうるのが瀬口真司の歌集「BEAM」だ。二十三区の夜景の黒い本丸・何度もジャンクルを生き延びて
国民の再統一統合の再一想像 SPACE
MOTHERSHIP 合 WARP
一九九四年生まれの瀬口は、これらを含む「PARCH」で笹井宏之賞を受賞。選考委員であるラッパのMoment Joonは本作の核を「戦前の天皇制の上に建てられた日本」と高度経済成長期の日本」という二つの色褪せた栄光の影を負った現代日本の反映と読み解いた。本作ではまさに、皇居の暗喩である「二十三区の夜景の黒い本丸」、残留日本兵といった戦争や天皇制に紐付いたモチーフと、「SPACE MOTHERSHIP」のようなサブカルチャーが合体する一方で、戦前と地続きの、いつ戦時になれ込むともいれない日本の姿が批評的に示される。

高島が軍事蜂起が起きた架空の東京を描いた首都赤雲を發表したのが一九九八年。そこから連なる作品と瀬口の歌を並べたとき、虚ろな身体をした影絵のような日本の姿が浮かび上がる。（歌人）

「俳句年鑑2026年版」 小川軽舟さんによる「2025年 100句選」、19歳から100歳までの俳人の注目作解説、600俳人の「諸家自選五句」など。（角川文化振興財団・3300円）
茨木和生句集「さやか」 昨年12月23日に86歳で死去した俳人の第18句集。「誓子忌に仰いでゐた山の星」「やりぬくといふこと大事雲の峰」（運河俳句会・3000円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合もあります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。

川野里子選

担当医はロボットという知らせあり頼みまじ
たよ息子の心臓
大気圏再突入の飛行士のごとく絶えたり友の
交信
（太田市）川野 公子
（五所川原市）戸沢大二郎

もの言はぬ駅伝選手に監督とアナウンサーが
絶叫してをり
（西条市）村上 敏之
厳かに早朝の宮静まりて多くの願いが湯気を
たてゐし
（高岡市）増澤 千佳
「僕たちはどう生きるか」に挟まれて九万円
の請求書あり
（西尾市）深谷 瑞希
☆美しく泳ぐことより冬の陽の揺れる水面を撫
みたい吾子
（柏市）伊藤 智紗
☆雪積もる無人の小屋でかじるパン植村直己の
孤独に触れる
（和歌山市）岡田 信也

生涯を電気の傘の中に終へし虫ら処理し大
掃除済む
（名古屋市）浅井 克宏
おじさんは存在だけでパワハラと言はるる朝
も出勤すべし
（小平市）真鍋 真悟
車ばかり走る国道4号に未確認歩行物体の我
（東京都）栗生 翠

【評】一首目、ロボットに一番大切なものを託すのだ。二首目、生存が危ぶまれる交信の途絶。三首目、黙々と走る選手が孤独が際やか。五首目、理想だけでは生きられないのか、と思う十五歳の作者だ。十首目、徒歩の心もとなさが伝わる。

佐佐木幸綱選

☆雪積もる無人の小屋でかじるパン植村直己の
孤独に触れる
（和歌山市）岡田 信也
ビールなら二缶までと添え書きす患者に諭す
賀状進まず
（長崎市）渡部誠一郎
唇から左手そして右手へと日光駆けてフルー
ト歌う
（東京都）井上 智景
☆美しく泳ぐことより冬の陽の揺れる水面を撫
みたい吾子
（柏市）伊藤 智紗
猫じやらし揺れたりねずみの走ったりする猫
用の動画あるらし
（奈良市）山添 聖子
命令形使って鳴ける三毛猫のしもべとなつて
開けるカーテン（ひたちなか市）猪狩 直子
歳晩の夜勤看護師ひととき壁のカレンダー
掛け替へゆけり
（美瑛市）寺澤 和彦
たんぼの架足蹴りにして飛ばすサーカス小
屋を出て来たヒロ
（埼玉市）水野 勝浩
演奏を終え退いた指揮者また忘れ物した顔で
現れる
（伊豆市）小野 千尋
中三の面影だけで読む賀状すでに不惑を迎え
る君ら
（出雲市）塩田 直也

【評】第一首、単独登山の孤独感を表現した上句、うまい。植村直己は日本人初のエベレスト登頂者。第二首、一人一人の患者を想って年賀状を書く医師。全部で何百通書くのか。第三首、フルート演奏を感覚的にうたっている。

高野公彦選

元朝のわがまなかに立つ一樹、幹の真意を
上る水声
（福島市）美原 直子
首相言う強く豊かな国にする そんなことよ
り恒久平和
（小山市）大塚 裕
ウォーキングしている山路に見つけたる仏の
ような石の温もり
（西予市）大和田澄男
新婚のわれらが住みし権太坂タスキの選手ら
に沿道の声
（枚方市）西山千鶴子
丘の上の瀟洒な街の張り紙は飼猫がしに
高価な礼金
（アメリカ）大竹 博
昏睡の母と同室意識ある患者に声をかけ一礼
す
（厚木市）本庄 伸子
耳のタグあいたわしや山奥に逃がした子熊
里で射殺され
（福島市）添田 敏夫
コンビニで年を越したる店員の勤務交替「あ
けおめ」交わし
（五所川原市）戸沢大二郎
葎狩りのビニールハウスの蜂たちは嫌われな
がら働いている
（東京都）上田 結香
交番へ道を聞くため立ち寄ればスマホを見せ
て教えてくれる
（日南市）宮田 隆雄

【評】1 首目、元旦の樹木を感覚的に描いた清澄な歌。2 首目、首相の言った言葉「そんなことより」を使って、ユーモアが漂う。3 首目、山路でまろやかな石を見て温もりを感じ、仏を連想。4 首目、箱根駅伝を見つつ新婚時代を憶う。

永田和宏選

逆行転はじめた地球 気がつけば帝国主義の
時代の真中
（町田市）村田 知子
最果てのグリーンランドを三度撫でやわら地
球儀機にもとず
（豊川市）河合 正秀
危ないと感じてるなら黙らずに声をあげねば
戦前になる
（加須市）坂入やすのり
おだやかに笑みつつ事は進捗し防衛予算も確
保されたり
（加東市）藤原 明
まつりさんは命を絶った働いて働いて働いて
働いて
（高岡市）池田 典恵
大根の抗う力が我が地球に空ける大穴いくつ
捕まった母熊子熊ハンターはどちらを先に撃
つのだらうか
（金沢市）竹内 一二
サンタクロース捕える罠を仕掛けた子だった
と毎年語る古希の母
（神戸市）浅田 拓史
ドラム缶の焚き火を囲む男たち股間に手をや
り尻に手をやり
（福岡県）末松 博明
一人では置いてゆけぬと夫のこと言う友はか
り八十路に入りて
（神奈川県）神保 和子

【評】世界は帝国主義の時代に逆行するという感が強いが（村田）、特にトランプによる傍若無人の発言にはあきれ他はない（河合）。こんな事態に声をあげなければ戦前になるとも思うし（坂入）、既に防衛予算の拡大に現れてもいる（藤原）。